

# 1Tp-17(P) 特別養護老人ホーム入所者の寝室および寝床内気候の実態調査

○ 岡本一枝\*、飯塚幸子\*\*

(\*独協医大医、\*\*実践女大)

目的 老人ホーム入所者の快適な睡眠環境を検討する上で、寝室や寝床内気候に関する研究は重要である。しかし、これまでの研究は一つの施設を対象としたものが殆どであり、施設差に着目したものは少ない。そこで、本研究では設備、日課、介護体制の異なる二つの特別養護老人ホーム入所者の寝室及び寝床内気候、睡眠感を比較検討した。

方法 調査対象は、東京都心と長野県郊外にある某特別養護老人ホーム入所者計30名（東京22名、長野8名）とし、さらにADLが自立している群（活動群）と自立していないねたきりの群（非活動群）にわけて比較した。調査期間は長野1994年、東京1995年8月であった。測定項目は寝室内、寝床内温湿度、起床時の睡眠感、日中の眠気、活力、気分とした。

結果 1) 東京のホームは、全室冷暖房完備で、衣類、寝具等も自由に選択でき、家族の訪問、日中行事もさかんであった。これに対し長野は、郊外にあり、暖房のみ完備で衣類、寝具はすべて共通、家族の訪問も少なく、日中行事も特に行われていなかった。2) 夜間の室内温湿度は、両群ともに東京で有意に温度が高く、湿度が低かった。3) 背部の平均寝床内温度は活動群では日中は東京で長野よりも3.4℃低く夜間は差が見られない。非活動群では日中は差が見られず、夜間は東京が1.8℃低い傾向であった。4) 日中の眠気、活気及び主観的睡眠感は東京で有意に良好であった。これらの差は、両施設の日課、介護体制との関連と考えられた。